

「ぎよぶ田んぼ」

な自然体験と
地域の生物多様性保全の場の創出

目的

- ▶ 小さな子どもを持つ保護者でも気軽に自然体験ができる場を作りたい。
- ▶ 適度に人の手が入った湿地を創出することでどの程度、地域の生物多様性に貢献できるのか試してみたい。
- ▶ 稲作を実施し、収量と生物多様性が両立する農法について模索検討したい。

2018年度（初年度）

- ▶ 水田を探すところからの始まり、地元農政委員さんのご協力で曾根新田の一角に小さな水田をお借りする。
- ▶ 手作業で湿地の創出
- ▶ 観察会の場として利用



18年度の調査結果

- 水生昆虫（20種） シマケシゲンゴロウ チビゲンゴロウ
マルケシゴンゴロウ属の一種 ハイイロゲンゴロウ
コガタノゲンゴロウ ウスイロシマゲンゴロウ
セスジゲンゴロウ属の一種
キイロヒラタガムシ ルイスヒラタガムシ
セマルガムシ属の一種 コガムシ ヒメガムシ
ホルバートケシカタビロアメンボ ヒメイトアメンボ
ヒメアメンボ コオイムシ ヒメミズカマキリ
マルミズムシ コミズムシ マツモムシ
- 湿地性昆虫（1種） ジュウサンホシテントウ
- 魚類（1種） ミナミメダカ
- 貝類（5種） ヒラマキガイの一種 ドブシジミ サカマキガイ
ナガオカモノアラガイ スクミリングガイ
- 両生爬虫類（4種） ヌマガエル アマガエル クサガメ マムシ
- 甲殻類（3種） アカテガニ クロベンケイガニ ホウネンエビ

34種確認

初年度の問題と課題

- ▶ 水が涸れる（中干し期や冬は水を通さないため）
- ▶ 湿地化したのは全体の半分。もう半分をどのように利用するか？

毎日新聞

生き物が観察できる環境に 休耕田を湿地へ

水辺の生き物を愛好する人々で作るNPO法人「北九州・魚部」(上野由里代理理事長)が、小倉南区にある休耕田を利用して、生き物の観察ができる湿地「ぎよぶたんぼ」づくりを進めている。7月1日には、北九州市水環境館と協力して「湿地再生プロジェクト」を実施し、参加者と一緒に生き物がすめる湿地づくりをする。【衛藤観】

魚部が借りた休耕田は、同区曾根新田を流れる朽網川の河口に近い場所にある。所有者の承諾を得て、休耕田約600平方メートルを使うことにした。5月から週末などに草刈りを行った後、鎌やスコップを使って土を雑草の根ごと引き取り、水路や水たまりをつくらせている。

曾根新田の600平方メートル



休耕田に水路を掘る作業に参加した北九州・魚部のメンバーら。同部提供

来月1日に「再生作業」
小学生以上参加者募集

井上大輔副理事長は「ここで生き物のにぎわいがどれくらい取り戻せるのかが楽しみだ。今が繁殖期で、モニタリングを続け、観察会も開きたい」と話している。

魚部と水環境館は7月1日の催しの参加者を募集している。作業は午前10時～正午。小学生以上が対象で、定員20人。軍手や着替え、タオルなどが必要。参加費は保険料込みで1人500円。申し込み、問い合わせは水環境館093・551・3011。

メンバ―は、作業の合間に生き物観察をしている。これまでにゲンゴロウ5種、ガムシ6種、アカアガニ、ホウネンエビなど7種を確認した。特にゲンゴロウの一種シマケシゲンゴロウは西日本での採集記録は少ない。県内では2006年に魚部が若松区内のため池で初めて確認。その後、同区の豊瀬ヒオトでも確認された。魚部は小倉南区では16年ぶりに曾根新田の湿地で発見。その湿地は道路工事でなくなったが、上野理事長が今春、「ぎよぶたんぼ」で3匹を見つけた。



今春に小倉南区曾根新田で確認されたシマケシゲンゴロウ。同部提供

北九州・魚部 「ぎよぶたんぼ」づくり

2019年度の目標

- ▶ 1年を通して水のある状態（湿地）を保つ。
- ▶ 利用していなかった敷地の半分を水田化し、農業と生物多様性の両立を目指すための試作的な稲作を実施する。
- ▶ 農業と生物観察の抱き合わせイベントの実施。



水田化

田んぼ模式図

- ▶ 湿地として利用していなかった半分を水田にし、試作的な稲作の実施
- ▶ 農作業代行業者を利用
- ▶ 耕起、代掻き

水田

湿地



水の確保

- ▶ 前年度に水が涸れていた問題を解消する
- ▶ エンジンポンプを利用し、排水路からのポンプアップにより1年を通して水が溜まった湿地とすることが可能になった。
- ▶ 渇水期の稲作にも活用。



田植えイベントの実施

- ▶ 市民参加型のイベントとして実施
- ▶ 参加者17名
- ▶ スタッフ21名
- ▶ 地元企業や遠くは広島からの参加あり



「ぎよぶたんぼ」稲作開始！
魚部史上初の田植え、今まさに



2019年6月2日(日) 10:00~
雨天中止、要弁当持参、汚れてもいい服装・靴
申し込みはこちらから
mail: gyobu_subsidy@gmail.com
tel: 080-1776-5353
定員25名、申し込みはお早めに。
担当: 工藤



地元小学生が活用

- ▶ 曾根東小学校の4年生の総合的学習の時間において、ぎよぶ田んぼを活用した自然観察会を実施。
- ▶ 田んぼの多い地域だが、実際に入ったことのある生徒は数名で、とてもよい機会になったようだ。



グローバルな活動にも活用

- ▶ 環境を学ぶ海外の学生（東田グローバル国際会議の参加者）19人に対して実習の場としての活用した。



稲刈り（イベント中止）

- ▶ 台風接近の為、イベントとしての稲刈りは中止せざるを得なかった。
- ▶ 気象条件や育成具合に大きく左右されるため、タイミングを掴めない初年度はイベントとして実施することが困難だった。



9月
23

ぎよぶ田んぼ稲刈り
いきもの観察会

@曾根新田「ぎよぶ田んぼ」
9/23（月・祝）午前8時～12時

持ち物：汚れてもよい服（長袖長ズボン）、着替え、軍手、帽子、飲み物、田んぼ長靴なければ運動靴、替えの靴、その他必要だと思うもの。

お申し込み、詳細はこちらから→ gyobu.subsidy@gmail.com
定員20名、先着順ですのでお早めにお申し込みください。（9/20㊞）

稲刈り（部員のみ実施）

- ▶ 平日の午後に部員のみで実施。
- ▶ とても重労働で2日間に分けて稲刈りをした。
- ▶ 収量が少なく、乾燥機にかけられなかったため「はさかけ」で乾燥。その間、台風により倒壊したため車内乾燥。



収穫された米の活用

- ▶ 70キロの収穫
- ▶ 魚部カフェ「バイオフィリア」（下津5丁目）にて提供している。
- ▶ ウナギの現状について考えるイベント「どじょう丑の日プロジェクト」を実施し多くの方にドジョウ丼として味わって頂けた。



反省点と2020年の目標

反省点

- ▶ 自主イベントの実施が1回のみとなった
- ▶ 陸生昆虫の調査ができなかった
- ▶ 報告会時に収穫できた米を配布しようと思っていたが、叶わなかった。

目標

- ▶ より多くのイベントの実施
- ▶ 生物多様性と収量の確保の両立ができる農法の模索検討
- ▶ 労力をかけない自然農法の模索検討
- ▶ 収穫された米の利用法の検討